

事故発生

パーティーを安全な場所に移動
(メンバーの安全確保が優先 レスキュー活動時の見張り)

事故の状況を把握
傷病者の全身観察

緊急度が高い

時間的余裕がある

心停止 大出血 呼吸停止 中毒 意識障害

聞く

見る

触れる

聴く

名前 原因 痛い場所

脈 熱

呼吸音

止血
心肺蘇生
気道確保

人工呼吸 2 回 (1 秒間に 1 回)
胸骨圧迫 30 回 (毎分 100 回のテンポ)

救助要請

- ・ 携帯・無線による連絡
- ・ 伝令による連絡 (緊急連絡カードの作成)
- ・ 遭難信号の発信
- ・ ヘリコプターの要請 (本人に必ず確認を取る)

救助隊による
ファーストエイド

- ・ 救助隊の指示に従う

搬送

病院

顔色 出血 外傷
意識 呼吸 腫れ
変形 嘔吐 麻痺

セルフレスキュー
ファーストエイド

救助計画作成

救助の手順
役割分担
事故発生の発信
(緊急連絡カードの作成)

保温 安静体位

搬送依頼 又は 自力搬送か

役割分担

- ・ リーダー
- ・ 救助員複数
- ・ 見張り
- ・ 連絡員複数
- ・ 記録 (写真撮影)

緊急連絡

110
119
118(海)
最寄の山小屋

アマチュア無線の非常通信方法

非常・非常・非常～

145.00Mz 145.50Mz 433.0Mz 433.50Mz (通信を確実行うためにリピータを活用)

発信 : 遭難信号は 2 分間 1 周期で、最初の 1 分間で 6 回の点滅を行い、次の 1 分間は消灯する。

(10 秒間に 1 回の点灯を 6 回 1 分間消灯 繰り返す)

応答 : 応答信号は 2 分間 1 周期で最初の 1 分間で 3 回の点滅、次の 1 分間は消灯。

(20 秒間に 1 回の点灯を 3 回 1 分間消灯 繰り返す)

山行前に、目的山域の警察及び山小屋の電話番号を携帯に登録しておくことと緊急時に便利です。

携帯電話 : 十分な充電。山行中は、電源を切る。新しい電池で予備も。冬季は、胸ポケット等に入れて、電池の消耗を防ぐ。

登山口に登山届ボックスがない場合がありますので、事前に目的山域の警察署へ登山届を郵送しておくことと確実です

緊急連絡カード

氏名(フリナガ)性別		生年月日		血液型 RH <div>+</div> <div>-</div> 型	
住所 〒				電話 携帯	
緊急連絡先 〒				電話 携帯	
団体名人数		登山届提出 <div>有</div> <div>無</div> 提出先	山岳保険 <div>有</div> <div>無</div>	ヘリ救助 本人意思確認 <div>有</div> <div>無</div>	
同行者代表者氏名		連絡先 〒		携帯	
報告者氏名		団体名	連絡先 〒	携帯	

事故状況

いつ 月 日 時 分頃		山域	山名	発生場所	
どのように					
事故発生時の天気 晴れ 曇り 曇りのち雨 雨 みぞれ 雪 ()					
要救助者の状態					
顔色	出血	外傷	意識		
呼吸	腫れ	変形	嘔吐		
麻痺	身体的特徴	上着の特徴(色、種類)	救助を待つまでの体制		
ケガ・病気の状態 及び 現在の状態(保温と安静状態)具体的に記入					